

ライオンズクラブ 2011 年度 YCE 派遣報告書

沖縄ライオンズクラブ 澤岬 理沙

私は、8月3日から17日までの2週間、マレーシアの首都であるクアラルンプールにホームステイしました。出発当日はまだマレーシアに行くという実感はありませんでしたが、クアラルンプール空港について現地のライオンズの方々やホストファミリーの顔を見たときには、マレーシアに着いたんだと感じました。とりあえず、それからというものには驚きや発見ばかりでした。私がマレーシアに着いて最初に驚いたのは、ホストファミリーの親切さでした。ホストファミリーは本当に信じられないほど親切でした。だから私はホストの方とすぐに打ち解けることができました。

クアラルンプールは想像していたよりもはるかに都市で、沖縄育ちである私にとって車から見える景色が新鮮でした。幅広な車道、高層ビル、巨大な広告など目に入ってくる都市風景に圧倒されました。ショッピングセンターは広すぎて、何回も買い物に連れて行ってもらったにも関わらず全部の店舗を見回れたことは一度もありません。

6日から3泊4日のYEキャンプに参加しました。キャンプは毎年違う場所で行われるそうです。今回は **Eagle Street** というキャンプ施設でした。そこでは、9つのグループにわかれて様々なアクティビティーをしました。例えばマレーシアの遊びや自国の紹介などです。日本人YEがほとんどでしたが、フィンランド、スウェーデン、イタリア、フランスからのYEもいました。日本からの参加者が40人前後であるのに対して、欧米からの参加者は7人ほどだったのですが、彼らは積極的で行動力があって自己主張に長けていて存在感がありました。日本人は彼らのような積極性に多少かけるところもありましたが、協調性、団結力があつたと思います。交流のなかでみえてくる国民性の発見は大切なことだと思います。違う観点から自己を見つめなおすことができるきっかけとなるからです。このキャンプでは様々な国の人とふれあい、異文化交流できるいい機会でした。

マレーシアの食文化には驚かされるばかりでした。毎晩連れまわされるということを経験前から聞いていたのですが、それは過言ではありませんでした。食べたばかりであってもまた食べに行くというのは当たり前のような感じでした。特に驚いたのは金曜日の夜でした。晩御飯を家で食べ終え、眠る準備をしている時に「今からご飯食べに行くよ」と言われ気付けば屋台にいました。金曜日は晩御飯のあとに、外で食べる慣習があるとホストブラザーが教えてくれました。しかし、この慣習を全ての家庭がしているわけではないみたいです。

マレーシア料理は基本、辛口で当たり前のように唐辛子がでできます。面白いことに、マクドナルドではケチャップと一緒にチリソースがついてくるほどです。外国の食文化もありインド料理（ロティ・チャナイが有名）、中華料理は一般的に食べられています。バクテーというマレーシアのスープは沖縄のテビチ汁とイカスミ汁を混ぜたような味

でした。メディスンが入っているとホストマザーが言っていました。バクテのように沖縄の食文化に類似するものもいくつかありました。また、マレーシアで有名なドリアンは国の宝といわれるほどで、初めて食べた人がまずい顔をするのを見るとマレーシアの人は嬉しそうにします。その点でも沖縄の人がゴーヤーを内地の人に食べたがらせる行動と似ていると感じました。うちな〜タイムがあるように、そこにはマレーシア・タイムが存在しました。

言語はマレーシア語、中国語、英語で日常的には主に中国語をはなしていました。英語は独特なイントネーションであったので、聞き取るのが少し難しかったです。しかし、何を言っているのかわからなくても意思疎通はできてしまうもので、何も問題はありませんでした。マレーシア語を日常的に使っている場面はあまりありませんでしたが、発音しやすく、短文で意味をなすものが多いので私にとっては興味深い言語でした。マレーシアでは車線を 50 メートルほど進むたびに **AWAS** という言葉を目にすることができます。危険という意味なのですが、そこに言葉からみる国民性がありました。なぜならほとんどの車がハイスピードで荒い運転だったからです。歩行者優先ではなく車優先社会であったのには驚きました。

私の場合、日中は近い地区に住む **YE** の人と一緒に行動しました。ショッピングセンターや寺、中華街やハイランドという遊園地にも連れて行ってもらいました。夜はナイトマーケットにも行きました。夜は家で妹や弟と一緒におしゃべりをしたり、ビデオ観賞をしたり、ネットなどをして遊びました。まず私が会った人たちは 100%、**Facebook** をしていました。私はネットをあまりしないのでつくりたくなかったのですが、弟に無理やりアカウントをつくらされました。興味はなかったのですが、今思うとつくってよかったです。**Facebook** をとおして今でも簡単に彼らと情報交換しあえるからです。だから、遠くにいても離れてはいない、と感じることができます。

ある日にはホストシスターの高校にも訪問したのですが、皆とてもフレンドリーでした。日本が好きな人が多かったのでいろいろ話しました。彼らは、いきなりの外国人の訪問にも関わらず、詳しく自らの国について紹介し始めました。私は沖縄のことが大好きなのでこの機会に、多くの人に沖縄のことを紹介できてとても嬉しく思いました。しかし、自分の住むところについて彼らのように詳しく説明することには欠けてしまったので、今回を機に自分の課題としたいです。

私はこの 2 週間で多くのことを学ぶことができました。言語はもちろんですが、それよりもマレーシアを、日本以外のアジアを、知ることができました。特に、その経験をホストファミリーと過ごすことで得られたのは、本当に良かったと思います。単に旅行して観光地をまわるだけでは得られない、本当の文化を彼らとの生活を通して学ぶことができたからです。しかし、ホストファミリーと過ごすというのはそう簡単にできることではありません。ですから、私はこの機会を与えてくださったライオンズクラブの皆さま、ホストファミリー、サポートしていただいた方々にとても感謝しています。

この機会を通した経験は私にとって本当に濃いものとなりました。今回得た課題を頭に入れつつさらに異文化交流に関わって、日本や沖縄のことを発信していきたいと思えます。このような機会を与えてくださった皆様にもう一度感謝申し上げます。

ありがとうございました。





